

調剤ミス防止バーコード ピッキングシステム『ミスゼロ子』

レセコンデータ連動でヒューマンエラー抑止

クカメディカル (奈良県)

調剤過誤をめぐる薬剤師の法的責任に社会的な関心が高まる中、クカメディカル(本社奈良県)の調剤ミス防止バーコードピッキングシステム『ミスゼロ子』を導入する薬局が増え、高い評価を得ている。

調剤をめぐる発生するヒューマンエラーは、薬品間違い、規格間違い、レセコン入力間違いや散薬秤量ミスなど多岐にわたるが、1つのケアレスミスが全社で培ってきた信頼を根底から崩してしまうことも起こり得る。薬局におけるリスクマネジメントは、そうした一連のミスを防止する対策を考えるとところから始まる。レセコン連動でヒューマンエラーを抑止する『ミスゼロ子』は、調剤薬局チェーン(7店舗)の運営も手掛ける同社が現場に立つ薬剤師の意見を反映させて独自に開発したシステム。群を抜いた使いやすさが最大の特徴で、調剤ミス防止バーコードピッキングシステムのパイオニア的存在だ。

「最も評価をいただいている点は、約2万品目に及ぶ薬品マスターのメンテナンスがほぼ不要であること。また、現在、外箱やPTPシートに表示されているJANコードは2015(平成27)年7月以降、新バーコード(GSI-RSSコード)のみとなるが『ミスゼロ子』の場合、すでに対応しており、導入薬局さまのさまざまな運用にマッチした使用が可能」と同社執行役員

調剤システム部部長の梶田賢司氏は、その優位性を強調する。

そのネーミングも印象的な『ミスゼロ子』は、レセコン入力データと照合するピッキングシステムと、同じくレセコン連動で散薬の取り間違い・秤量ミスを防ぐ散薬監査/秤量記録システムの大きく2つで構成されている。調剤時にバーコード(JANコード)、もしくはPTPシート・分包ヒートのGSI-RSSコードをハンディ端末でスキャンし、レセコン入力データと照合する。ハンディ端末は、タッチパネル式小型携帯タイプ(連続10時間運用かつ予備バッテリー付)でバッテリー切れの心配もない。オプションで棚卸、仕入、発注といった在庫管理に関する業務も行える。

バーコードを読み込んだ時点で薬品名や規格の誤り、充填ミス、調剤漏れ、二重取りなどエラーを発見。エラー表示・エラー音・バイブレーションで三重に薬剤師の注意を喚起する。半錠チェック、予製品ピッキングなども可能。ハンディ端末を使って調剤した医薬品とレセコン入力内容を後から照合することもできる。その他、棚番登録・表示、調剤数量表示、患者一覧など多彩な機能を備え、監査ならびに投薬までのヒューマンエラーを防止する。

一方、散薬監査/秤量記録システムは「電子天秤」の秤量値とレ



『ミスゼロ子』

セコン入力値を棒グラフで分かりやすく表現。常用量・年齢・体重別薬用量をあらかじめ設定することでセーフティゾーンをビジュアルで示してくれる。薬品間違い・規格誤りはもちろん、秤量ミス時もエラー音+赤色のバー表示で視覚に訴える。

システム一式の設置とレセコンの連動は2~3時間程度で導入も容易である。設置後、導入薬局には十分な説明に加え、運用に際して同社の立ち会いサポートが行われる。薬局側の作業は、現在使っている調剤カセットにバーコードシール(同社が用意)を貼るだけ。今後、調剤包装単位GSI-RSSコードが全ての薬品に表示されれば貼る必要もなくなる。定期的に更新される薬品マスターは、同社HPよりダウンロードできる。

「1人薬剤師の薬局は『ミスゼロ子』の導入によって第3者的なチェックを行える。10数台のハンディ端末を接続する規模の薬局では、経験の浅い薬剤師でもレベルの統一を図れる」(梶田氏)との汎用性の高さが評価され、全国で多数の導入事例を誇っている。